

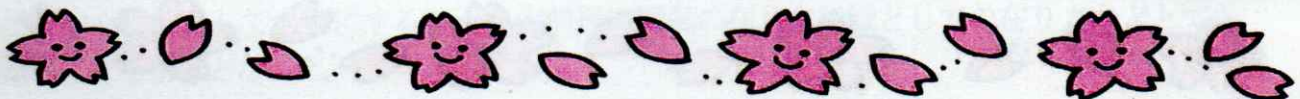
## ～第17回青年部セミナー～

2011年2月22日23日の2日間に渡り、自由民主会館8階ホールにて、第17回青年部セミナーが開催されました。開会式、自由民主党 谷垣総裁のあいさつに始まり、日本保育推進連盟 副会長：大島和彦氏の熱の入った「本部報告」がありました。続いて、日本保育協会青年部長：堀昌浩氏の「児童福祉について」をテーマとした現行の保育制度と新システムに移行した場合の保育制度の説明がありました。その後、堀昌浩部長を対談相手として迎え、日本保育協会青森支部長：坂崎隆浩氏が、「福祉の行方」と題した対談を行いました。

WT委員として、子ども子育て新システムの最先端でご活躍なさっている坂崎先生ならではの、いかにして新システムが出来上がっていったのか、を政治的背景を交えた裏側まで解説していただきました。

今年の時局講演には、衆議院議員 党政務調査会長 石破茂氏をお迎えしました。

翌23日は、参議院議員：有村治子氏、親心を育む会 事務局：高木早智子氏、筑波大学大学院 スポーツ科学専攻：柳澤弘樹氏、日本保育協会青年部副部長・広報部会長：佐喜眞裕子氏の4人による「30年後もあり続ける保育園として」のディスカッションを行いました。幼保一体化に揺れ、先が見通しにくくなっている状況の今だからこそ、30年後もあり続ける保育園の為に何ができるのか、何を大切にしていかなければならないのか・・・様々な見地からご意見をいただきました。今年のセミナーは、日々刻々と変化する現在の保育情勢と子ども子育て新システムが話題の中心になっており、色々な意味で、保育において「節目」になるだろう事を予感させるものでした。





## ■ 広報委員会 視察研修報告：D 保育園 ■

新しい年も明けてまもない1月の半ば、私達広報委員会は少し足を伸ばしてD 保育園への視察研修へ行って参りました。私自身も他園への視察は久しぶりであったため、とても興味を持って参加しました。

視察に訪れたD 保育園はクリスチャンである創始者の意思を反映し、お祈りなどのキリスト教保育を取り入れた保育を行なっているそうです。また、この地域では4、5歳児になると幼稚園に行く傾向にあり、昨年度までは0歳児より3歳児までの保育園として運営していたそうですが、待機児童の増加に伴い市より要請を受け、今年度より4・5歳児の受け入れを実施しています。

視察時は定員増に伴う増築工事の最中でした。新しく充実した施設に加え、歴史ある既存の建物にも耐震工事を施し、園児がのびのびと安心して過ごせる工夫が随所に感じられた施設でした。

最後にD 保育園より広報委員へ、受入れたことのない4・5歳児の保育や、お昼寝についての質問があり終了となりました。その後は日本一の（と思われる）階段数を誇る神社を息を切らせながら参拝し、委員一同、今年一年の保育園の発展と園児の安全を祈願しました。

今回の研修に参加し、地域のニーズや時代の変化に合わせ、柔軟な対応を取ることの大切さを痛感し、保育園運営への気持ちを新たにしました。



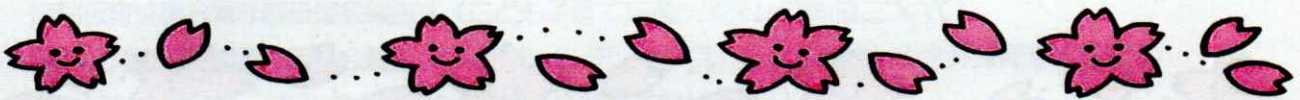


## ■平成 22 年度調査研究委員会活動報告■

調査研究委員会 委員長 菊地 渉

去年は保育士、今年は保護者と今までの流れとは少し違った場所にスポットを当てて アンケート作成をしてまいりました。社長が変われば会社も変わるように、委員長が変わればアンケートも変わるということですね。私の場合は運営にほとんど携わっていないので、経理や補助金のことは正直まだよく分かっていません。ならば！と保育士ならではの視点で切り込んでいったつもりだったのですが…いかがでしたでしょうか？少しでも参考になることがあったなら幸いです。

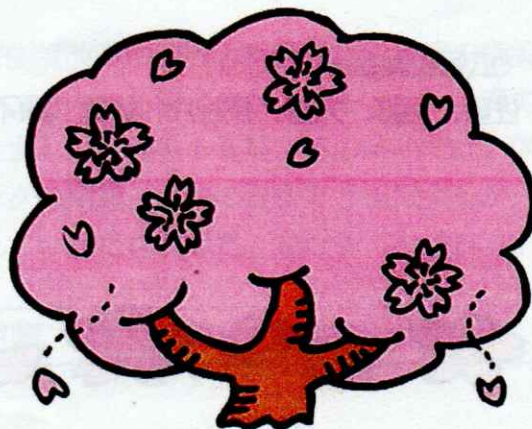
さて、不甲斐ない若輩委員長の任期はひとまず終わり、来年度からまた新たな委員会がスタートします。この2年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



## ■平成 22 年度研修委員会活動報告■

研修委員会 委員長 萱場 祐友

2年間にわたり研修委員会活動をしてきました。今年度は10月に茨城県カウンセリングセミナーの小沼京子先生をお迎えし「保護者の心理を知るために」の研修会を行いました。お忙しい10月の土曜日ではありましたが97人の皆様に参加していただき、現場での悩み、保護者の対応方法等を学びました。また今年度は事務局主催の新システム研修会、2月には企業が運営している JP ホールディング アスクむさし小金井保育園へ視察研修も開催し盛りだくさんな委員会活動でした。あっという間の1年でしたが青年部会員、研修会参加者の先生方に支えられ無事終えることができました。皆様にとりまして有意義な研修会であれば嬉しく思います。ありがとうございました。





## ■平成22年度広報委員会活動報告■

広報委員会 委員長 小笠原 聖華

今年度の『礎』は手に取っていただけただけでしょうか。

そもそも広報とは様々な手段を用いて知らせること、その目的を達成するべく歩んできて、道半ばにして大きな課題にぶつかりました。それは、物事を知らせるためには自身の深い理解が不可欠ということです。広報の内容を理解し自らの一部となるほどに取り組むことができたか・・・否です。流動的な保育施策、行政への対応、保育界が抱える様々な課題について、もっと噛んで噛んで自分のものにしたい。そしてこの『礎』を作ることは誠に自分勝手ながら、なんと有効な手段であったか、今までも、これからも。この機会を与えてくださった青年部に今年度も重ねて感謝申し上げます。



### 編集後記

2年間というのは、あっという間ですね。1年はもっと早い！！今期の前半に「こんなことがありました」のコーナーがありました。

…覚えていますか？素敵な出会いの末、結婚した美男美女のカップルのお話を。まさに青年部も、人との「つながり」を持てる大切な場ではないでしょうか。私たちは常に人を求め、人に育てられています。オトナもコドモも、いつまでもいつまでも人との「つながり」を糧に成長していきます。今現在ある、この素晴らしい「つながり」は、青年部あってこそ。絆、仲間、というのは財産です。みなさん、これからも素敵な出会いを大切にしましょう♪この2年間、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

「礎」25号 編集メンバー（広報委員会メンバー）  
小笠原、金澤、堀川、川又、佐藤、河野、大谷、長谷川、後藤（順不同）





いしずえ

礎

## 茨城県民間保育協議会青年部



## ☆ トピックス ☆

- 民間保育協議会青年部研修会報告 1 (こども子育て支援システムの状況について)
- 民間保育協議会青年部研修会報告 2 JP ホールディングス アスクむさし小金井保育園視察研修)
- 日本保育協会報告 (三支部合同研修会・第18回青年部セミナー)
- 広報委員会 視察研修報告
- 各委員会報告 (調査研究・研修・広報)



## ■民間保育協議会 青年部研修会報告 1 ■

～こども子育て支援システム (幼保一体化) の状況について～

民間保育協議会青年部研修会が平成23年1月24日(月)ひたちなか市平磯海岸の平野屋本店で開かれました。今回の研修会は青年部OBで飯沼保育園理事長の東ヶ崎静仁先生と泉ヶ丘保育園理事長の渡辺信行先生にお越しいただき、今政府内で行われている子ども・子育て新システム(幼保一体化)の状況について、最新の情報をもとにお話しいただきました。実際に以前からの保育制度改革に近いところで活躍され、今の幼保一体化の議論にも精通していらっしゃるお二人の講演でしたので、非常に盛り沢山の内容で、これからの自分たちの保育園をどのような方向に持って行ったらいいのか、参加者が1人1人真剣に考えられる研修会だったのではないかと思います。

研修会は、これまでの保育制度改革の流れと次世代育成支援の構築に向けた経緯について、東ヶ崎先生からご説明いただき、そののち渡辺先生より子ども・子育て新システム検討会議の最新の議論内容をお話しいただきました。最後の質疑応答の時間では、保育料の未納と直接契約の問題や、イコールドフィッティングの問題、保育の質をどう担保するか(許可・指定の問題)など、具体的な事柄についても触れていただきました。(次ページへ続く)

エコ活動の一環として、両面印刷、NOホチキスにて配布いたします。



先生方のお話を聞いているうちに、時代の節目ではどんな制度でも変化を求められるもので、福祉というものの考え方の基本が「生存権」から「幸福の追求権」へと変わりつつあるなか、福祉の担い手の一つである保育制度も、何らかの変化を求められるのは、確かに必然のようにも思えてきました。いずれ変わらなければいけないのなら、より良い変わり方を考える前向きな姿勢と、時代が変わっても変えてはいけない基本のようなものを見つける目を持ち、変えるものと守るもののバランスをとっていくことが、制度改革には必要なのではないのでしょうか。「すべてぶち壊す」とか「何も変えない」といった極端なことではなく、これからの子ども達の為に、時代にあった制度を考えること、それが求められていることなのかなと考えさせられました。

この講演の後には、平磯の海の幸を堪能しながらの情報交換会も行われ、青年部らしくいろいろなことに率直な意見が交わされていたようでした。「よく学びよく遊べ」。この研修会を企画した担当者の方々に感謝します。非常に有意義な時間を有難うございました。

また、この原稿を書いている今は、研修会から1か月ほどたち、子ども・子育て新システムの内容もさらに煮詰められてきているようですが、これを読んでいる先生方ほどのお考えでしょうか？今度は先生方のお考えを民間保育協議会青年部にお持ちいただき、よりよい保育界を創っていききたいものです。今後の研修会にも奮ってご参加ください。よろしくお願い致します。



## ■民間保育協議会 青年部研修会報告2■

### アスクむさし小金井保育園(JPホールディングス)視察研修

平成23年2月22日(火)、アスクむさし小金井保育園に視察研修に行ってきました。

今、保育界は非常に揺れ動いております。

子どもに対してどのような援助が必要となるのか模索する中で、政府は幼保一体化を含む新たな次世代育成支援のための包括的・一元的なシステムの構築について子ども・子育て新システム検討会議を開催しました。

基本設計の中に多様な事業者の参入によるサービス基盤の整備として、株式会社・NPO等の参入を促進している。

今期の研修委員会はその点に着目し、企業立保育施設「株式会社 JP ホールディングスグル



ープ」の保育施設の見学を企画し、グループ代表との質疑応答で保育施設の在り方など、伺いに行った。

2月22日、東京都小金井市 JR 中央線 武蔵小金井駅から徒歩3分、デパートや商店街に隣接した黄色い建物、2010年4月1日にオープンした視察先の「むさし小金井保育園」を訪問した。

定員は69名。一階は保育室からそのまま出られる砂場のある園庭と、ちいさな畑のある屋上園庭の二階建ての施設である。各保育室を見る限り、認可保育所であるので、もちろん我々の施設と変わりはない。

強いて言うなら環境や子どもたちの体に優しいと言われる地中熱エネルギーを利用した空調システムを導入していた。このような設備を投入できる事については後ほど説明したい。

保育室などの見学を終え、いよいよ代表 山口 洋 氏との質疑応答である。少なからずとも株式会社立の保育所には色々な疑問を抱いていたので質問に対してどのような返答が来るのか楽しみであった。

#### 質問事項)

- ①株式会社立と社会福祉法人立の違い(メリット・デメリット)とは?
- ②職員の育成方法
- ③職員の処遇
- ④今後の保育界はどうなっていくと考えるか?

#### 返 答)

①

「株式会社は何と言っても資金調達率である。社会福祉法人は非課税と世襲が出来る」との答え。なるほど地下を掘って設置する地中熱の空調システムを設備できるわけだ。社福の非課税・世襲については今後メスが入るだろうとの答えであり、企業としての考え方を述べていた。

②

年間234コマの研修があり知識向上と社会常識の会得を重視した研修となっている。中途入社保育士研修やコミュニケーション研修、組織として考えた研修が見られた。

③

研修を自主的に参加した者が昇給するシステムとなっている。保育士の資質向上において与えるだけでなく自己研鑽というものが非常に重要となってくる。なかなか面白い手法と感じた。

④

必ず変わっていく、変わらなければならない。多数の保育施設は表向きだけきれいな事をやっている。そして保育界を変えたい!

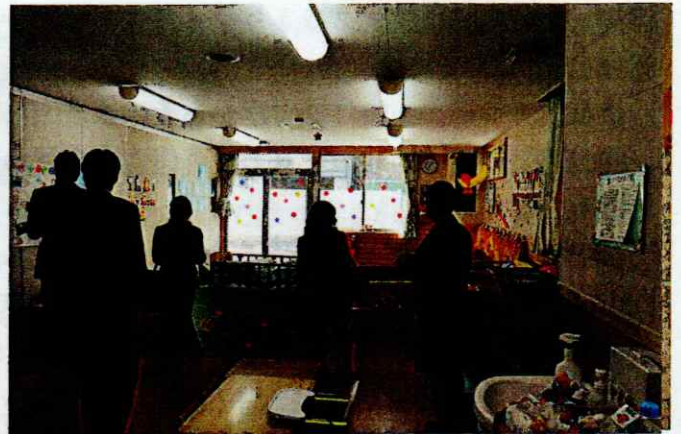
株式会社が参入する事で保育施設に社会常識が入ってくる。

こうして一時間ほど代表の考えと思いを伝えていただくことで、当初、私が少なからず思っていた企業立保育所の偏見を払拭するほどの中身の濃い質疑応答となった。

我々は利益を追求する株式会社では無い。しかし、社会福祉法人を運営しており組織でもある。福祉の心は心として大切にすることを大前提に運営の在り方組織としての在り方などとても参考になる研修となった。



新たな風を否定するのではなく、確かなものを選別する眼を持ち社会の中の歯車の一つである保育界を発展させていきたいと思った。



## ■日本保育協会報告■

### ～茨城・広島・青森支部三支部合同研修会～

11月24日に、日本保育協会 茨城・広島・青森支部による三支部合同会議がこどもの城で開催されました。

まず、日本保育協会常務理事：萩原英俊氏が「最近の保育情勢について」の講義がありました。その中では、子ども・子育て新システムの検討経緯や、幼保一体化ワーキングチームの内容などの説明があり、目まぐるしく変化している保育情勢を読み解くヒントをいただきました。

次に、厚生労働省雇用均等児童家庭局保育課課長補佐：今村則継氏は、「保育制度をめぐる問題について」として、現在の国の動向と課題について話され、続いて、社会福祉法人鶯園常務理事：小林和彦氏より「介護の世界から見る保育制度について…実践を通じて」の講義がありました。小林氏は、神戸市で介護施設と保育園を多数経営しており、介護側から見た、現保育制度転換期に予想される課題を予想される課題を見据えた経営の必要性を痛感いたしました。